

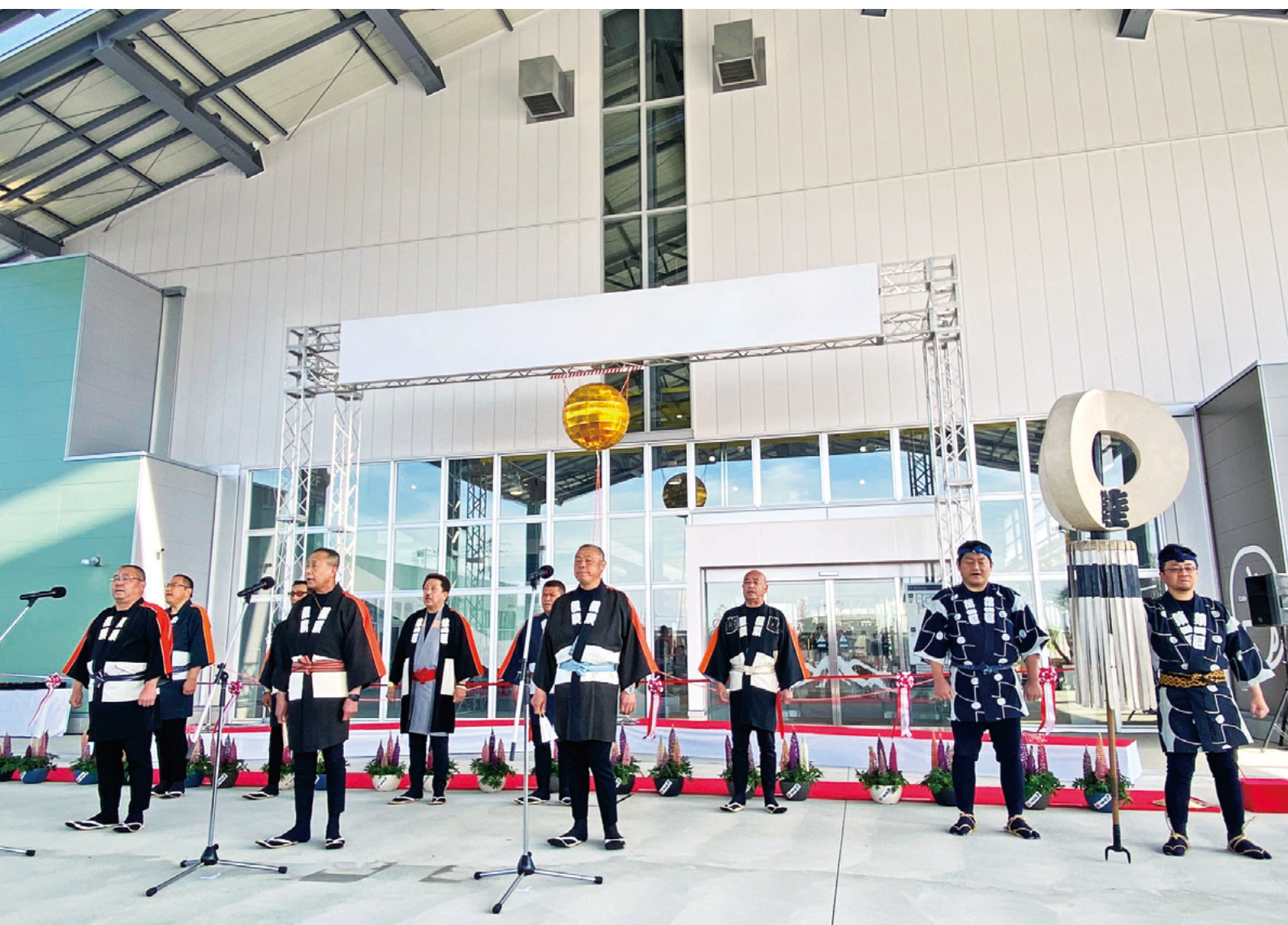
中小
企業

ぐんま

VOL.759
2025.

1

- ▶ 新年挨拶
- ▶ 業界・組合リーダーの年頭所感
- ▶ 新年名刺広告



伝統を歌う「木遣り(きやり)」〈一般社団法人群馬県鳶工業連合会〉



群馬県中小企業団体中央会

- 新春講演会・新年会
1月30日(木)
前橋商工会議所会館
- 決算税務講習会
3月5日(水)・12日(水)
ピエント高崎/オンライン
- 第77回中小企業団体全国大会
11月12日(水)
広島県広島市
広島県立総合体育館
(広島グリーンアリーナ)

新年挨拶 2

- ・群馬県中小企業団体中央会会長 吉田 勝彦
- ・群馬県知事 山本 一太
- ・全国中小企業団体中央会会長 森 洋
- ・株式会社商工組合中央金庫前橋支店支店長 福岡 仁志

業界・組合リーダーの年頭所感..... 6

情報連絡員だより 16

新年名刺広告 18

LAN Local Area News 23

- ・ぐんまエコアクション21倶楽部
- ・群馬県運動具商(協)
- ・高崎卸商社街(協)

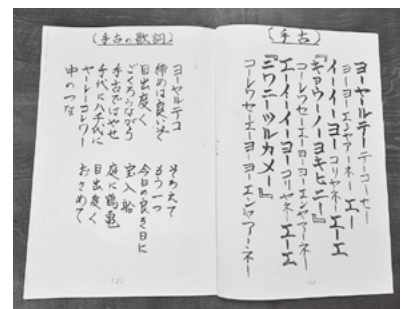
インフォメーション 24

めいど in 群馬 (表紙の写真)

伝統を歌う きや ～「木遣り」～

揃いの“半てん”をまとった鳶職人が威勢良く声を合わせる「木遣り」。

近年では、出初式や祭礼、企業の式典などの「祝儀歌」として披露されているが、現代のように重機などがない時代には城や神社を建てる際、重い石や大木を大勢による人力で運ぶ作業で、力を入れるタイミングを合わせるための「労働歌」として歌われていた。そのため、仕事が始まる朝、もうひと頑張りの昼、仕事が終わる夕方と、一日の中で歌も異なり、歌を覚えないと現場にも出られないなど、当時は欠くことのできない生活の一部であったのだそう。



縁起の良い鶴・亀などの歌詞が並ぶ教本

また、木遣りに決まった音程やリズムはなく、親方や先輩の歌を聞いて“口伝”^{くでん}で覚えていくため、地域や時代で歌い方が異なり、とても奥が深い。

今回、話を伺った一般社団法人群馬県鳶工業連合会の吉田知弘会長によると、記録では、実際に木遣りを使って仕事が行われたのは100年以上前のこと。「何百kgもする丸太の真棒を使い、木遣りのリズムに合わせ玉石を突き固める『木遣り棚地業(たなじぎょう)』の技法を伝承するため、約30年前に行った再現プロジェクトには、自身も若手として参加した。次は自分たちが伝えていく番。2年後をめどに若手を含めた『木遣り棚地業』を披露したい」と意気込む。

吉田会長のもとには、木遣りに興味を持ち教えて欲しいと集まる若手も多く、ともに活動する仲間達と練習を始めているそうで、歴史を受け継ぎ後世に伝えなければならないという強い意志が感じられた。

一般社団法人群馬県鳶工業連合会
前橋市三河町1-5-4 (株)吉田架設内 ☎ 027-260-9177